

戦争の記憶を 消してはいけない! PART2

—辻井喬、加藤周一、水上勉の場合—



辻井 喬(1927-2013)

西武王国の総帥だった父・堤康次郎の跡を継ぎ、理論派経営者の手腕を発揮する一方、詩人・作家として活躍。1961年、詩集『異邦人』で室生犀星賞、1984年『いつもと同じ春』で平林たい子文学賞。

(引用：新潮社公式WEBサイト)

加藤 周一(1919-2008)

1960年以降カナダのプリティッシュ・コロンビア大学、ベルリン自由大学、アメリカのイェール大学などで教鞭をとる。晩年には「九条の会」の呼びかけ人となり憲法第九条の擁護を訴える。

(引用：立命館大学図書館ホームページ)

水上 勉(1919-2004)

戦後、小説家の宇野浩二に師事し、『フライパンの歌』を処女出版しベストセラーになる。昭和36年(1961)『雁の寺』で第45回直木賞を受賞。昭和40年(1965)『宇野浩二伝』で菊池寛賞受賞。

(引用：兵庫県立美術館ホームページ)

「戦争の記憶を消してはいけない」は作家・井出孫六がよく口にしていた言葉だった。昨年2月、同じテーマで「吉村昭、井出孫六、井上ひさしの場合」を取り上げたが、今回はその第二弾として辻井喬、加藤周一、水上勉を取り上げる。編集者として30年以上にわたって三人と親しく交流してきた講師が、彼らの想いを伝える。

2024年 **8月9日(金)**
19:00~20:30 (18:30開場)

定員：200名

(事前申込順、定員に達し次第締切)

参加費：一般 1000円

学生 500円

(※当日学生証をお持ちください。)

会場：日比谷図書文化館 地下1階
日比谷コンベンションホール (大ホール)

講師



やまぐち あきお

山口 昭男

岩波書店元代表取締役社長

編集者・評論家。日本ペンクラブ会員、日本ジャーナリスト会議代表委員、井上ひさし研究会会長、ふくい風花随筆文学賞実行委員会理事、樫の会理事。1949年東京生まれ。73年東京都立大学経済学部卒業。同年岩波書店に入社。入社後一貫して『世界』編集部にも所属し、88年6月から96年3月まで編集長。2003年から13年まで代表取締役社長を務める。現在、中央経済社ホールディングス常勤監査役。

著書に『辻井喬=堤清二 文化を創造する文学者』(共著、平凡社、2016年)、『メディア学の現在 新訂第2版』(共著、世界思想社、2015年)、「権力に恐れられる存在に」(東京社『総合ジャーナリズム研究』145号、1993年)、「いま声をあげなければ将来に悔いを残す」(『論座』2005年4月号)など多数。

お申し込み方法

電話(03-3502-3340)、ご来館、ホームページのお申し込みフォーム、いずれかにて下記の情報をご連絡ください。

- ①講座名(または講演会名) ②お名前(よみがな)
- ③電話番号
- ④メールアドレス(ホームページからお申込みの場合)

*小学生以下のお子さまが参加される場合、保護者の同伴が必要です。(同伴者の方にも参加費が必要です)



交通アクセス

- 東京メトロ ●丸ノ内線
●日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口 / 徒歩3分
●千代田線「霞ヶ関駅」C4出口 / 徒歩3分
都営地下鉄 ●三田線「内幸町駅」A7出口 / 徒歩3分
JR「新橋駅」日比谷口(SL広場) / 徒歩10分
※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用ください。

千代田区立 日比谷図書文化館

〒100-0012東京都千代田区日比谷公園1-4
https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/

各種SNSリンク

